



夢・いっぱい

第9号

令和3年12月24日

2021年度の経営方針：今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

ジェンダー平等を実現しよう

校長 原田 剛

1年で夜が最も長く昼が短い冬至を過ぎ、2学期が終わろうとしています。学校行事がほぼ平常どおりに行われ、子どもたちも充実した学校生活を送ることができました。保護者の皆様、地域の皆様には、様々な面から支えていただき、誠にありがとうございました。3学期もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、2学期の終業式では、子どもたちに「ジェンダー平等」の話をしました。ご存知のように、2015年の国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の5番目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」に関する内容でもあります。小学生には理解が難しい内容もあるため、大きく以下の2点について話しました。

- 1 女の子（女性）に対する差別をなくしていくこと
（例）世界中で学校に行くことができない子どものうち、女の子は男の子の約2倍いること。
- 2 男の子や女の子だからと決めつけるような言い方や考え方をやめること
（例）上履きなどの色の選択は、男女で決まっていないこと。
制服のズボンとスカートを選択できる学校が増えていること。

実は、愛宕小学校では、「ジェンダー平等」に配慮して、2学期から2つのことに取り組んでいます。

1つ目は、トイレの表示をピクトグラムに改めたことと、スリッパを水色で統一したことです。表示は、これまで「男子便所」「女子便所」でした。また、スリッパも男子便所が「青」、女子便所が「ピンク」だったのです。性の多様性にも配慮し、でき得ることを検討した結果なのですが、いざ変更してみると、違和感なく生活することができ、当たり前のようにされてきたことが、何の意味もないことだったと気付かされます。



新しいトイレのマークと水色に統一されたスリッパ

2つ目は、授業中、友だちの名前を呼ぶときは「～さん」で呼ぶということです。相手を大切に思う気持ちと呼び方に込めようというねらいもありますが、男の子は「～くん」、女の子は「～さん」と決めつけなくてもよいのではないかと考えています。こちらは、定着には時間がかかりそうです。

そして、最後に子どもたちにお願ひしたことは、一人ひとりが自分らしさを出して、それをみんなが「いいよ」と言ってくれる学校になるということです。愛宕の子どもらしい「品（ひん）」を育てていきたいものです。